

令和5年度第1回池田市行財政改革推進委員会 議事要旨

【と き】 令和5年8月31日（木） 午後1時30分～午後3時00分

【ところ】 池田市役所 3階 議会会議室

【出席者】

■委員：中川会長、村瀬副会長、福井委員、毛利委員、荒木委員、牛嶋委員、村上委員

■事務局：水越総合政策部長、塩川総務部長、永原総務部次長兼人事課長、山本財政課長、森本総合政策部次長兼政策企画課長、小松政策企画課副主幹、吉村政策企画課主任主事

【傍聴者】 2名

【内 容】

1) 開会

＝事務局から配付資料の確認＝

2) 議事

案件1：池田市行財政改革推進プランⅢのまとめ（案）について

＝水越部長から中川会長に「池田市行財政改革推進プランⅢの計画期間を通した取組に関する意見依頼書」を手交＝

＝事務局から配付資料について説明＝

＝質疑応答（抄録）＝

委員：4ページについて、総括ということでこのプランの達成状況について表示しているが、(3) 一般会計実働職員数の推移について、目標600人程度に対して実績は594人となっている。目標を達成したという説明があったが、なぜ達成と言えるのかについて説明書きを記載する必要があると考える。5ページの2 中期目標に係る数値の推移についても、目標0以上に対する実績が2億3300万となっており、目標達成ということだが、こちらについても説明書きを加えた方がいいと考える。

6ページからの取組状況について、「達成状況」が分かりにくい。「○」、「空欄」、「－」それぞれの説明は必要だと考える。「空欄」が未達成であることは先ほどの説明があったのでこの委員会を通じればわかるが、資料だけ見るとわからない。特に「－」と「空欄」の違いについて、例えば、7ページ目の「外国人市民を主体にした多文化共生イベントの実施」では、目標は「2回程度実施する」、取組実績の記載には「実施できた」とあるが、「－」となっている。これは目標が達成でき

たのかできていないのかよくわからない。基本的に実施目標が「－」の場合に達成状況が「－」となるものと認識していたが、そうとも限らず整合性が取れていないと感じる。

以上2点について説明を求める。

事務局：達成状況について、例として挙げていただいた分については、目標の「2回程度実施する」に対し実績としては「1回」しか実施できなかった。ただ、回数としては達成していないが、実施したイベントでは多くの方に参加いただくことができたため、「－」とさせていただいているところ。指摘のとおり、全体的に統一性がないため改めなければいけないと考えている。(3) 一般会計実働職員数の推移についてと、2 中期目標に係る数値の推移についてのコメントの記載や、達成状況の表記に関しても検討させていただきたい。

副会長：一般会計実働職員数の件で、確かに600人程度という目標に対して594人ということなら達成しているが、令和元年度からの推移を見ていると少しずつ増えている。その理由があれば記載してほしい。

委員：プランⅢのまとめということで、位置づけとしては、この4年を振り返ってできたこと、できなかったこと、またそれがなぜできなかったのかという課題感をしっかりと示すことだと認識している。だが見ていると、やったことだけが書かれていて、課題感は何なのかわかりにくい。例えば8ページの一番下『『ふくまる教志塾』Facebook ページによる情報発信』の備考欄に、若い方にアプローチする手段として塾生のFacebook利用率が減少傾向にあり、新しいツールに切り替える必要があるという課題感がしっかりと書いている。本来であればすべてに書いてあった方がいいが、少なくとも達成状況として「○」がついてないものは何かしら課題があって達成できなかったと思うので、「○」がついていないところぐらいは、そこに対してどういう問題があって何が課題なのかというのはしっかり振り返りをした方がいいと考える。これをしておかないと次の目標設定の時になんとなく前回と同じ目標設定になってしまうのではないかと懸念する。

事務局：指摘のとおり「○」がついていない部分に関しては、何かしらの影響があって達成されていないと思うので、こちらについても検討させていただきたい。

副会長：令和4年度を取組状況の欄では達成できてない取組もあるが、24ページ以降の4年間の振り返りの欄については、記載の仕方は様々で表現は違っているが、ほぼ全て肯定的な評価となっているように感じる。単年度のところで見ると「SNS

のフォロワーの数」は総じて達成できてないが、4年間の振り返りで見ると、「配信をした」と肯定的な評価に終わっている。4年間トータルで見たら達成できたという評価になるのかもしれないが、反省点も記載してほしい。また、24ページ以降の文字のフォントがそれまでと違って読みにくい点も改善してもらいたい。

委員：一つ一つの取組の目標と実績についてはよくわかるが、施策一項目－プログラムのレベルで最終的にどの程度達成できたのがよくわからないような状態になっている。各取組で未達成のものがあったとしても、プログラムとしては達成できている、そういった見方もあると思う。そういった指標もあればよりわかりやすくなるのではと考える。

委員：4ページの「一般会計実働職員数」の育児休暇取得職員数だが、男性職員がどれくらい取得して対象職員数が何割くらいなのか知りたい。続いて、7ページの「防災講座開催による、市民の防災意識向上と防災活動に係る参画の推進」の目標としては「防災講座を年に3回する」となっていて、24ページ以降の4年間の振り返りでも「3回実施できた」ということで「達成」となっているが、もう一歩踏み込んで、その講座に何人参加したのかということに記載した方がいいと考える。ここでの取組実績の中で「市民のみならず職員や他市職員まで広く周知した」とあるので、何人参加者がいたのか併せて記載すると、回数のみで達成とするより、人数の増減の移り変わりが見えるので工夫していただきたい。また、8ページの「ホームページにおける市政やまちの話題の情報発信」の欄に関して、実際にホームページを見ると「重要なお知らせ」と「大切なお知らせ」という書き方があり、どちらから入っても中身は同じである。ユーザーの方からすると「重要」と「大切」という言葉の使い分けもよくわからないので、機会がある時に一本化されてはいかがかと感じる。あと、13ページの「立地適正化計画に基づく事業の推進による市街地の機能更新と都市空間の質的向上」の欄にある「ウォークアブル」という言葉はなかなか馴染みがない言葉である。用語集への記載をお願いしたい。

委員：池田市全体的に建物等が老朽化して建て替わる時期であるため、そういった点に着目し、興味深く資料を拝見した。

副会長：今回は令和4年度の最終報告とプランⅢの総括を兼ねているということだが、2ページから5ページにかけては総括的な説明書きが少ないと感じる。単年度報告ならこのボリュームでいいかもしれないが、総括ということであればもう少し説

明書きの部分があってもいいのではないか。例えば、3 ページでは、財政調整基金残高が令和4年度末で20億円以上という目標を大きく上回って達成しているが、これだけ見ると一体この目標の立て方は何なのか、容易なものを挙げていたのかという疑念が残る。プランⅢの原点を辿れば何か危機感があって、結果この数字を見たらうまくいったのかとわかることであり、これだけだとわかりにくいと感じる。また、経常収支比率について令和4年度は2.9ポイント悪化ということで数字の面では悪化だが目標は達成している。少なれば少ないほどいいという考え方もあるが、どう使われたのかが大事であり、2.9ポイントの悪化とまで評価を加えてこだわる必要があるのかと感じる。他の関連団体も同じように何かの理由が増えていけば、池田市が駄目だったということでもないかもしれないので、その辺りが気になる。5ページの「勤務時間の弾力運用の取得状況」では、各年度の数字の違いについて詳しい説明書きがあり、「令和3年度より令和4年度の取得人数が増加した主な要因として業務上の事由による取得の増加がある」とあるが、業務上やむを得ずようになったのか、働き方改革として肯定的な評価なのか、わかりにくいので回答を求める。

事務局：「勤務時間の弾力運用の取得状況」の説明書きで「令和3年度より令和4年度の取得人数が増加した主な要因として業務上の事由による取得の増加がある」としている部分の理由としては、業務上で外出しなければならぬことがあるためである。例えば消防職員が小学校で防火教室を行うのに準備等で出勤時間の前倒しを行ったり、その他夜間の打ち合わせ等が理由として挙げられる。やはりコロナ禍が落ち着いてきたことで、集まったの会議や行事が増えている現状がある。また、ご質問いただいた「男性職員の育児休暇取得」については、大まかな数字でいうと取得率は17%、令和4年度に子どもが産まれた男性職員世帯の中で育児休暇を取得した割合は38%であり、取得率は上がりつつありこれからも数値を上げていきたい。

副会長：勤務時間の弾力運用については、今の話を聞いて、働き方改革なのか疑問に思ったところで、早出して早く帰れるということであれば意味があるだろうが、本来は早出や残業をして時間外手当をもらえるところがもらえなくなることがあるのではないか。残業予定だからゆっくり出てきてもいいという意味では働き方改革なのかもしれないが、その制度を利用して人件費削減ということになるとそれは働き方改革なのかという疑問が残るところである。

委員：6ページ以降の取組状況の書き方で、「今年度」「昨年度」「年度末」という文言について大半は令和4年度のことを示しているとは思いますが、統一されているのか気

になる箇所がある。例えば12ページの「昨年度第2版へと改版した」とあるが、目標の欄を見ると「令和2年度に策定した」と書いてある。「昨年度」というのは令和3年度のことなのか、わかりにくい。将来的にも公表する資料なので「今年度」「昨年度」という書き方ではなく具体的な年度を記載した方がいいと考える。あと、中間報告の時の同じ記載になっているところがある。例えば7ページの「今年度は改定を予定していないため実績なし」というのが途中経過のような報告になっている。「令和4年度は改定を予定しておらず、その結果実績なし」というような実績報告のような書き方をしてもらいたい。

副会長：「Twitter」は「X」にサービス名が変わったので、そのように記載してもよいのではないかと思った。

会長：今回は推進プランⅢのまとめということで、この次につながる提案をしていきたい。行財政改革の課題の設定の仕方などについてはうまくできていると感じるし、財政面においても努力が見られる。しかしながら、「財政改革」だけでなく「行政改革」にどれだけ繋がるのかという視点をもう少し強くしてもいいのではと考える。財政面のコストダウンという面では有効であったと思うが、働き方改革という項目が途中から入ってきているように、パフォーマンスアップに向けた改革をしていくことができればと思う。つまり「以前より労働生産性が上がった」「サービスプログラムが増えた」等、改革の成果として出せたらいいと考える。これまでの行財政改革はどちらかといえばコストダウン改革中心だったと思うので、「パフォーマンスアップ改革」「生産性上昇改革」に繋がる視点が必要であると考えます。また、ほかの委員の指摘で、実働職員数の区分に男女の区分がないということに今回気づいた。特に育児休暇取得において男性職員の取得が奨励されているという中、育児取得職員数の内訳に男女の区分がないのはおかしいと感じる。「実働職員数の推移」の数値は正規職員の数となっており、ここに会計年度任用職員等の非正規職員の計上も必要ではないか。人件費に関してはやはり圧迫要因にもなるので、非正規職員数も入れるべきではないのかと考える。実際に一般会計実働職員数が減ってきていて非正規職員が増えているのであれば、改革できていない部分に係る数値を示していないと批判を受ける可能性もある。

また、施策1「開かれた市政の推進」、項目(1)「市民参画の推進」があるが、これに対応する取組が、市民の「参画」に重きを置いており「協働」がないと感じる。市民団体や市民と一緒に公共事業や公共サービスをやってみるという視点をもっと出せないかなと感じる。どの行政分野も全て住民自治と団体自治が対応して存在する。そういう意味で住民自治をしっかりともらえるように働きかける改革もあれば、団体自治の無駄を省きパフォーマンスを上げる改革もある。

その中で、次はもう少し住民自治を評価するようなフレームがほしいと感じる。例えば防災について、各地域レベルで年間どれだけの防災訓練が行われたか。その回数をもっと増やそうというのも指標になっていいのではないか。7ページの3回の防災訓練は行政主導の防災訓練である。地域の自治会や住民協議会主導でやってくれる防災訓練がもっと増えたら防災効果があるという話もある。池田市の市民、事業者も一緒に協力して、池田市の目標を全部達成していこうというのが自治体全体の意思である。だからそれが評価できるようなフレームを作ってはどうか。先ほどの防災一つにしても、行政主導の大規模な防災訓練、地域の小規模な防災訓練において、それぞれで実施回数の目標を立てるなどの仕組みができないかと思った。それができれば住民自治がきちんと表に出てきて、それが改革の活性につながる。そのような行財政改革プランがよいのではないか。

事務局：指摘の「協働」の観点は、第7次総合計画の中でも「みんなで取り組むまちづくり」を掲げており、今後力を入れていきたいと考えている。行財政ステップアップガイドにおいても、「多様な主体のまちづくりへの参画の推進」という視点でまちづくりを進めていくことを示しているところ。次回の委員会で、今後の行財政改革についてどのようなことを中心に取り組んでいくかということを示唆させていただく予定である。

委員：今後は目標設定のところについても、モニタリングができるような視点があればよいと思う。例えば「防災講座3回開催」というそもそもの目標設定がどうだったのかということもある。そういったところから我々も意見をさせていただき、今後の池田市のステップアップに繋がっていくことができればいいかと思っているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

委員：やはり次の目標設定が非常に重要だと思う。その時にどういった課題感があって、だからこの目標にするのだと意識して目標を設定することができればよいと思う。

委員：派遣の方を増やして財政が良くなったという部分は気になったところ。派遣の方を増やしすぎると正規職員に対する教育の部分が疎かになり、正規職員の技術や知識が残っていかない可能性がある。

副会長：池田市はSDGsに関しても取り組まれているので、環境に対する配慮などについても、この行財政改革で大きく取りあげてもいいのではと感じる。「ごみの減量」についての項目もあるが、紙やプラスチックの使用料をどの程度減らせるかということについて、まず市役所の内部で取り組んでいただくべきことかもしれない

し、それを市民に啓発して広げていくということもあっていいのではと感じる。

会 長：今日出た意見は大変貴重なものばかりで、精密に仕上げていただくという意味で指摘があったことが役立つと思う。プランⅢは仕組みとして完成度の高いものであるがために意見が言いにくくなっている面もある。そういう点で次の行財政ステップアップガイドでは、少し仕組みやフレームを新たな視点で見直してもいいかもしれない。

今日出た意見を参考に事務局に修正いただき、それに対して委員より最終的な意見を出していくということにしたい。

3) 閉会

次回開催は令和5年9月22日(金)

以上